



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
 代表 加藤 賢三
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (財)千葉県環境財団環境技術部
 環境啓発チーム
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969

平成 16 年度定期総会の開催

～「印旛沼をきれいにする活動」・「アダプト制度の提案」など新規事業決定！～



4月25日(日)、船橋市中央公民館第2集会室に於いて25名の出席を得て、「環境パートナーシップちば」の平成16年度定期総会が開かれた。

<総会、拍手で承認>

縣和子氏の司会で始められ、[環パちば代表]加藤賢三氏、[千葉県環境生活部環境政策課指導計画室長]花澤栄氏、[(財)千葉県環境財団環境管理グループ参事]山口幸一氏の挨拶の

後、議長に土田茂通氏・書記に鈴木恵子氏が選出された。平成15年度事業報告・会計報告・監査報告、次いで16年度事業計画(案)・予算(案)・規約改正(案)の説明、更に加藤氏の代表留任ほかの新役員選出(案)の提案などがなされ、質疑応答を経て全てが承認された。事業計画の中でパートナーシップを実現する積極的活動として、ベイFMと千葉県環境再生基金の助成金を受けた「アダプト制度の提案」・「印旛沼をきれいにする活動」の新たな2事業が展開されることとなった。一方で、会費収入・助成金・寄付金など環パ財政への意見が多く出された。

市原市長佐久間隆義氏(環パちば元副代表)も、ご多忙の中挨拶に駆けつけてくださった。

<活動の事例紹介>

NPO法人印旛沼広域環境研究会 太田勲氏の「印旛沼からの報告」、加藤代表の「アダプト制度提案について」の発表があり、環パの新規事業展開への参考例として会員の関心を高め理解を深めた。

(文責：総務部 縣和子)

「新たなパートナーシップへ」

代表 加藤 賢三

は多いのですが、実際に活動できる方々が少ない状態でやっております。思ったほど自分達が考えたほど進んではおりません。やはり、パートナーシップといっても団体が数多くあり、その団体を代表している方々が中心となってこの会を運営している形の環境パートナーシップちばが、「パートナーシップ」と「情報」と「ゆるやかな連帯」ということを考えながらやってきた活動が、ある程度一定の形というか硬直状態になった、という考え方も出来るのではないのでしょうか。これからは、もう少し自立したような形、もう少し提案できるような自主的な活動が出来るように、やって



自立するような形で会を運営してきて、ちょうど1年がすぎました。それなりに活動してきたのかな、という感じがします。何と言っても団体数

いきたいと思っています。そのときにやはり、今までお世話になった県の方々や、財団の方々、会員の皆様ともっともっとパートナーシップを薦めていきたいと思っています。

パートナーシップと簡単にいっても、それは、人と人とのつながりにつきると思います。初代の鈴木さんも二代目の横山さんも、人間と人間のつきあいをし、「これほど多くの方々を知り合っている方がいるだろうか」と思うような、ある意味ではモデルみたいな方なのではないでしょうか。そういう目で周りを見回してみると、例えば、事業部に入っている中岡さんも、本当に多くの付き合いをもっておられる。その他の皆さんも、人間と人間とのつきあいをベースにしているよう

な、活動をしている。これから私たちは、「人や人とのつながり」を貴重なかけがえのない財産としていきたいと考えています。これからの新年度の活動方針もあると思いますけれども、例えば「三番瀬問題が1段落ついた」、「次は印旛沼の問題をやってみよう」というような目線でこれからやっていきたいと思っています。

これからは、「持続可能な社会を構築する」というちょっと難しい話ですが、私たちが出来るだけ長生きできるような環境を作っていきます、という形でこの現在築き上げたパートナーシップをますます発展させていきたいと思っておりますので、今後とも宜しく願いいたします。

平成 16 年度事業計画

事業	日程	内容
印旛沼アダプト制度の提案 印旛沼をきれいにする活動		アダプト制度の提案と印旛沼の浄化活動をテーマにした活動が、それぞれベイFM寄付金、千葉県環境再生基金を受けることができたので、地域の中で広く協働の和を作る活動を展開していきます。
エコサロン	6月25日(金) 8月 10月 12月	諏訪湖視察報告
学習会	未定	決定次第、随時お知らせいたします。
エコメッセ	8月8日	幕張メッセ国際会議場
環境シンポジウム千葉会議	11月14日 (全体会)	実行委員として参加
フェアなどに参加	県、市町村の環境イベントに参加	
環境学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印旛沼事業を中心とした体験的学習の推進 ・ 様々な環境保全活動を広める為、行動を共有化・パートナーシップをはかる ・ エコマインド養成講座の協力推進 	
だより	5月、7月、9月、11月、1月、3月(いずれも月末発行)	
HP	だより等の掲載、掲示板の試行	
運営委員会	月一回定例	

新役員紹介

代 表	加藤 賢三	総務部長	縣 和子	アドバイザー	小野 朗
副 代 表	高橋 晴雄	総務副部長	時 任 きよこ		川原 啓佑
会 計	桑波田 和子	事業部部長	中岡 丈恵		佐久間 隆義
	橋本 公江	広 報 部	広田 由紀江		鈴木 優子
書 記	代表預かり	監 査	大西 優子		永島 輝代
			深尾 秀次		平松 南
					横山 清美

～活動事例紹介 1～

「印旛沼からの報告」

NPO法人印旛沼広域環境研究会 理事長 太田 勲 氏



「NPO
Oいんば」
は、平成 1
2 年 4 月
千葉県よ
り認証を
受けて、現
在の会員
数は、(株)
広域高速
ネット 296、
印旛沼土

地改良区、佐倉市観光協会や一般企業である(株)山万等、団体関係 30 会員、一般会員約 200 名で構成されています。

目的は主として、印旛沼の浄化啓蒙運動であるが、次のような事業を行っています。

- (1) 印旛沼に流入する河川の汚濁度独自観測事業。
- (2) 沼内と近くの低地排水路計 2 箇所水草観察園を造成。ここで育苗した水草を移植することによる印旛沼在来種水草の復元研究を行っている。
- (3) 旛沼探検イベントの開催による、子どもと

保護者に対する啓蒙活動。

- (4) 親と子の環境フォーラム開催。
- (5) 無洗米テスト販売。
- (6) 平成 15 年 7 月千葉県より印旛沼の在来種水草再生事業を委託事業として受託。
- (7) 学童の田植え体験と自然環境型農業の実験。
- (8) 印旛沼環境団体連合会の結成と組織の強化。

「水を治める者は、国を治める」という格言があります。私たち市民は、印旛沼流域で日々生活を営んでいる以上、次世代のために、「今私たちが水を治めなければならない」と強く胸深く刻んでおかなければならないことであると決意しています。沼をきれいにするためには私たち市民が市民権を得て、団結することによって政治や行政がこちらを向いてくれるということが言えるのではないかと。平成 15 年 2 月、12 団体で印旛沼環境団体連合会というものを立ち上げました。実際、印旛沼をきれいにするのには、お金がかかります。まずは私たちが団結することだと思っています。

～活動事例紹介 2～

「アダプト制度提案について」

環境パートナーシップちば 代表 加藤 賢三



今年度は、環境パートナーシップちばの自主事業として、二つの事を予定しています。

すでに「だより」にもお知らせをしていますが、この場をお借りしてもう一度紹介させていただきます。それらは、[LOVE OUR BAY 募金]によるものと千葉県環境再生基金による「印旛沼をきれいにする活動」です。前者は、印旛沼浄化のため、印旛沼および印旛沼に注ぐ河川について、アダプト制度の導入の可能性に関して報告書を作成するものです。そして、国内のアダプト制度に関する情報を集めるとともに、先進事例の現地聞き取り調査、セミナー等の開催も行います。ここでは、主として前者の例についてふれます。まず、提案を行うに至ったのは、私の所属する NPO 法人八千代オイコスが、花輪川について、既に八千代市との間で、平成 15 年 8 月にアダプト制度の合

意書を取り交わしたという経緯があったからです。八千代市は、平成 15 年に市民が愛着を持っている身近な公園や道路、河川などの里親になり、清掃・美化活動を推進する環境美化里親（アダプト）制度を本格的に導入しました。ちなみに八千代市の場合は、参加団体数は 41、個人が 8、河川関連ではまだ 2 団体のみです。作業場所は 56 箇所、作業の延べ人数は 1,812 人で、圧倒的に多いのは公園関連団体です。

アダプト制度は、1985 年に高速道路に散乱するごみをきれいにしようとしてアメリカで導入され、清掃美化活動として定着してきました。アダプト（Adopt）は直訳では「養子」という意味です。本来、市などが管理する公共の公園や道路、河川、空き地などの場所を「子供」に見立てて、「里親」になってくれるボランティアとの間で養子縁組をし、自主的な清掃・美化活動をボランティアに

託するのがアダプト制度です。市民と行政の間で互いに役割分担を決めて、合意書を取り交わし、両者のパートナーシップのもとに清掃・美化活動を進めていくものです。市民の役割としては、環境美化活動の実施及びその報告です。それに対して、市は、清掃用具の提供、貸与、傷害保険への加入、アダプト制度の認定看板の設置、ごみの回収、などを行います。

現在、この制度の普及は急激な広がりを見せています。国内でも 120 を越える自治体が加入するまでになりました。アダプト制度の波及効果は環境保全のみならず、まちづくりや地域への愛着などに広がりを見せています。

印旛沼流域の河川を市民の楽しめる、いわゆる「里川」にしていくために、グラウンドワーク方式で市民が行政と事務所と一緒に力を出し合せて行くためのモデル事業にしたいと願っています。今後の問題として、千葉県民の水瓶の浄化のためこのアダプト制度を、印旛沼および印旛沼に注ぐ河川について、広げていくことが出来るのではないかと期待しています。環境パートナーシップちばでは、長野県の諏訪湖について、アダプト制度の先進事例の現地見学をしての報告会から始めていきたいと思っております。多くの皆様のご参加をお願いいたします。



「印旛沼をきれいにする活動」の参加者募集！

～夏休みに、親子(小・中学生)で体験・実感してみませんか！～

主催：環境パートナーシップちば

印旛沼は、飲み水として使われている湖や沼の中で、ワースト1なのをご存知ですか？

「印旛沼をきれいにする活動」は、未来を担う子どもたちが夏休みの環境学習として親子で、印旛沼流域で土手のゴミ拾い・水の調査・川の生き物調べ・バスツアーなどに参加し、住んでいる地域を知るきっかけづくりをする体験プログラムです。詳細は、参加者に後日連絡します。



7月11日(日)までに、申し込み

申し込み先：環パちば総務部 縣(あがた)

/fax: 047-364-3950 e-mail: kazukoagt@yahoo.co.jp

A. 7月17日(土) オリエンテーション

ビデオやお話・水質検査の説明・印旛沼の現状見学などです。

場所：内水面センター(舟戸大橋)・・・センターまたは臼井駅集合

B. 夏休み 印旛沼流域(参加者の希望の調査場所)で体験活動

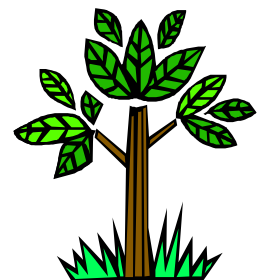
土手のゴミ拾い・水の調査(透視・パックテストなど)・川の生き物調べをします。

C. 8月21日(土) バスツアー

印旛沼流域の現状をバスで見学します。(京成佐倉駅集合)

D. 10月3日(日) 体験の振り返り・・・佐倉市臼井田防災会館

それぞれの体験を話し合い、自分たちがこれから何ができるか考えましょう。活動の参加証明書を発行します。また、同時開催の「NPOいんば」や「NPO印旛野菜いかだの会」の「甦れ印旛沼の秋祭り」に、自由参加できます。



アダプト・・・を見て、聞いて、関心、安心してきました

事業部長 中岡 丈恵

5月19日、小雨。6時50分、船橋発、一日一列車往復の南小谷行き特急あずさに乗し、「諏訪湖シャボン普及会」のアダプト現場に向かいました。諏訪湖の岸边には、各活動団体の立派なアダプトプレートが設置されていました。シャボン普及会では9日に清掃したばかりなのにあいにくの西風で対岸から大量のゴミが打ちあげられてしまい、その中には菱の実や大きな鯉、フナもあり、魚の眼が食べられているの気になりました。

午後からは長野県諏訪土木建設事務所を訪問しました。当事務所管理計画課では、アダプト制度を取り入れて市民、企業を公募し清掃の受持ち場所を団体からの申し出により決め、3年契約として任せる事にしました。64団体が参加。32地域を2団体ごとに受け持ち、年3回以上の清掃を義務として、軍手、トンク、金属製熊手、各市町の指定ゴミ袋を無料配布して諏訪湖の周囲16Kmの美化活動を行うのが諏訪湖アダプトプログラム



諏訪湖は前方にアルプス・ハヶ岳と廻りは山に囲まれた盆地の大部分を占めており、流入する大小河川は31、そのなかで一級河川が15もあり、流出する河川は天竜川のみです。天竜川は伊那谷を下り静岡県、愛知県の飲料水に利用されています。諏訪湖の周囲は下諏訪町、諏訪市、岡谷市が取り巻き、流入河川には高原野菜セロリ、レタスの大生産地があります。見学の最後として、シャボン普及協会の活動である自宅前の落水川の保全活動を拝見しました。初めは1人で始めた活動でしたが、やがて、町内のさまざま技能、特技を持つ方々が参加して、それぞれの持ち味を生かして、水質浄化の装置などを作ってくれたそうです。川のなかにビオトープの箱を長くつなげたり、パッキ装置をつけたりした結果、透視度などが下がり、水草がよく繁茂している現場をまのあたりにしました。

諏訪には旗を振った現場の担当者、それに協力した市民、企業お互いの諏訪湖を考える気持ちが触れ合い協働が芽生え、育まれていました。自然は大きく手ごわいが、それよりも大きいのが汚れている市民、啓発の虚しさなのは。環境汚染は人が作り出しています。



です。このプログラムは諏訪湖に流入する上川でも行なわれていました。

～エコサロン～ 諏訪湖視察報告

市民が愛着を持っている身近な公園、道路、河川などの里親になり清掃・美化活動をする、環境美化里親（アダプト）制度の先進地である、長野県諏訪湖の視察に行ってきました。この事例を学びお話しいたします、そして私たち千葉県印旛沼にも広げていけるものかを皆様と話し合うひと時を計画いたしました。

日時：6月25日（金） 13時半～15時半

会場：千葉県庁2階 NPOパートナーシップオフィス会議室

参加申込み・問い合わせ：事業部 中岡丈恵

FAX 047-385-8950 / e-mail naka.hta@trust.ocn.ne.jp

エコメッセちば2004出展者募集!

「エコメッセちば」は今年で9回目となります。その間、市民活動団体・企業・行政・などから多大なご支援をいただきながら、これに賛同する市民・企業・行政などの代表者からなる実行委員会を設けて、行事の企画・運営を行ってきました。エコメッセちば2004は、「県とNPOとの協働事業」として実施され、今回はじめて、幕張メッセで開催します。開催時期は夏休み、ちょうど幕張メッセで「恐竜博」が開催されているときです。子どもたちが楽しみながら環境について学ぶ良

い機会にしたいと考えています。

現在、環境活動・環境事業の紹介、エコ商品の販売、製品展示、学校等における取り組みなど、出展参加を募集しています。特に、子どもたちのための楽しく学べる体験型のプログラムをご提供ください。夏休みの課題研究の参考になる環境情報を分かりやすく解説したものや、環境保全や環境問題解決のための具体的な活動例のご紹介をお願いします。

日時：2004年8月8日(日)10:00~16:00

主催：エコメッセちば2004実行委員会(加藤賢三 実行委員長)

場所：幕張メッセ 国際会議場

●参加費：市民活動団体は1区画につき5,000円、企業は1区画につき10,000円
(展示のみ・物販を含む展示)机180×60cm1台、椅子2脚付き

●広さ：1区画 2.0m×2.0m(複数区画の申し込み可)

●募集区画：250区画(申込みは6月7日(月)まで)

問い合わせ：「エコメッセちば2004」実行委員会事務局

電話 043-241-3023 FAX 043-241-3002

E-mailの場合 info@ecomessechiba.jp <http://ecomessechiba.jp>

併せて、実行委員・当日スタッフ・協賛・市民スポンサーも募集中です。

「環境シンポジウム 2004千葉会議」 は 10年記念

横山 清美

1995年から市民・企業・行政のパートナーシップで運営されている「環境シンポジウム千葉

会議」が10年目を迎えました。

10年記念として9月には分科会が独自の日程・会場で開催され、11月の全体会には、あすの環境を創り出すために「考える」をこえた「具体的な行動計画」の提案を目標としている環境学習分科会など、さまざまな立場・地域で、持続可能な開発のための教育が提案されるものと期待されています。

そこで「環境パートナーシップちば」立ち上げのきっかけである、環境シンポジウム千葉会議の2004年を予告編・お誘い編・分科会報告編・全大会報告編とシリーズで追いかけます。

テーマ：「地球のあしたに向けて千葉からアクションを！」

全体会；2004年11月14日(日)10:00am - 4:00pm

日本大学生産工学部津田沼キャンパス

分科会：地球温暖化防止分科会 / 9月26日(日)1:00pm ~ 4:00pm / 千葉市民会館

ごみ問題分科会 / 9月5日(日) 1:00pm - 4:00pm / 未定

里山・川・湿地分科会 / 9月23日(祝) / 東邦大学理学部

環境教育分科会 / 9月11日(土) 1:00pm ~ 12日(日)3:00pm / 市川市自然少年の家

環境保全分科会 / 9月25日(土) / 未定

各分科会や全大会の内容については、次回(7月末発行)となります。

詳細については、環境シンポジウム千葉会議実行委員会へお問合せください。

TEL 070-5584-5940 FAX 047-336-3785

E-Mail chibakaigi@hotmail.com

ゴミ拾いに参加して気がついたことがいくつ
かある。

たとえば、タバコのポイ捨てだ。駅周辺、信号機の下、大学のキャンパス、などいたるところでポイ、ポイ捨てられている。

捨てるの事を考えて捨てる人間は、まずいないだろう。かく言う私もそうだった。タバコをやめて25年たつが、拾い始めてからというもの、やはりうずくものがある。

おそらく、公のところでゴミを捨てる経験をしていれば捨てることをしなかったのではないか。

ポイ捨ての感覚が、ありとあらゆる場所へのゴミの不法投棄の温床に思えてならない。

環境や福祉の市民活動の中で知り合った仲間、昨11月より「四街道をきれいにする会」

を名のって、毎月15日(5×3の日)、30~40名で、駅前、住宅地、田畑地帯、谷津田、などゴミを拾って歩いているのだが、拾い初めてものの30分も立たないうちに、軽トラックに2台分満載する程のゴミが集められる。はじめ悲しい気持ちになり、ついでこの状態が、千葉県各地、いや全国各地の偽らざる状態だと思つくと、いったいなんちゅう国にしてしまったのか、怒りがこみ上げてくる。四街道にあふれたゴミで自然や里山が年々荒廃している様子に心を痛めながら、でも皆は黙々と拾っている。しかし、なぜか終わってからすがすがしい気持ちになるし、楽しいゴミ拾いになっていくから不思議だ。

自己責任と環境

環境パートナーシップちば
副代表 高橋 晴雄

おそらく一緒に見て、拾った共通体験で人の絆が生まれ、自然環境を守る、人の石垣になっていくに違いない。

私は、最近、はやりの「自己責任」のことを考える。目の前に困っている人を黙ってみていることが出来ないで、それを救ってあげることが、本来の意味での「自己責任」(中村元)というのだそう。環境保全への自己責任も、その論理に当てはめて考えて見る価値がありそうだ。

「自己責任」がにわかにメディアに登場したのは、イラク人質事件の最中であった。周知のように時の福田官房長官が、家族と本人への批判として使った。

目の前の困った人や環境を見過ごせず行動することが本来の「自己責任」なら、この批判は当たらない。環境(人間)破壊の劣化ウランを

調べたい。圧政下、爆撃下のイラクの子供たちを救いたいという一心で出かけた若者たちこそ「自己責任」の誇れる発揚であった。国際社会が青年を賞賛した。日本政府の対応がひんしゆくをかったのも当然であった。

「議員年金があるのでついうっかり・・・」と口を滑らせた議員達がいた。困った人たちや高齢者の年金に使われる国民年金の未納者として「自己責任」を問われるのに、あざとくも世論誘動の言葉として「自己責任」を使ったのである。ゴミ拾いも行政への市民参加も正しい選挙権を行使するのも国民の「自己責任」であろう。

里山の体験活動リーダー養成講座

人々の自然と密接に関わって、循環していた自然・・・里山

かつての里山では、エネルギー源を確保するために、人々は自然に手を入れ、それによって里山は保たれてきました。人々の暮らしの変化でかつての里山はどう変わっていったのか?

今、「里山のシステム」が注目を集めています。

里山の生物・植物・人々の生活・・・里山をキーワードに自然体験活動のリーダーを養成する講座です。

CONEの自然体験活動リーダー資格が取得できます。

日 時 6月18日(金)~20日(日)2泊3日

場 所 国民宿舎 清和 0439-38-2117

対 象 里山に興味のある方

参 加 費 20,000円

申込方法 電話またはFAXで(先着順 定員30名)

申込先・問合先 NPO法人千葉自然学校 電話 043-227-7103

県庁観光コンベンション課 電話 043-223-2415

▼ カリキュラム 自然体験活動の理念・指導法・基礎技術・安全対策プログラムの作り方等

主 催 千葉県 NPO法人千葉自然学校 講 師 NPO法人千葉自然学校トレーナー

平成 16 年度エコマインド養成講座のご案内

1 講座主旨

本講座は、環境に関する知識を得るだけでなく、参加体験型の学習を通じて自然に対する感性や人と環境、さらに人と人との関わり方を学び、**環境を大切に思う心(エコマインド)**を育むとともに、環境学習の普及啓発・指導を行なえる人材または地域での環境保全活動のリーダーの育成を目的としています。

2 主催 千葉県

3 実施機関 財団法人 千葉県環境財団

4 講座内容

必修科目 11 科目 (7 日 + a) 活動の体験での選択により日数が異なります
 選択科目 10 科目 (3 日以上) 千葉県環境研究センター公開講座を受講しても単位日数に加え
 時間は 10:00 ~ 16:00 です。ただし、「活動の体験」については選択するものによって時間は異なります。詳細については <http://www.ckz.jp/eo16.doc> をご参照ください。

4 定員 県民(平日)コース 35名 県民(土日)コース 35名

6 申込方法

申込書に必要事項を記入の上、受講希望理由(400字以内・様式任意)を添付し、郵便、FAX、E-mail で 6月16日(水)までに事務局へお送りください。E-mailでお申込の場合、様式は問いません。受講決定者には、決定通知書をお送りします。なお、申込多数の場合には、厳正な審査のうえ受講者を決定いたします。

7 修了証 全ての必修科目及び選択科目を3日以上受講された方には、修了証を交付いたします。

8 その他

(1)平成13年度以前のエコマインド養成講座 一般(平日・土日)コースを受講されている方は、日程表の**分野3のみ**受講いただければ修了証を交付いたします。
 (2)平日・土日とコースは分れておりますが、事前にご連絡いただければ、必修科目の振り替えや他コースの選択科目に出席することができます。

9 事務局 財団法人千葉県環境財団 環境技術部 環境管理グループ 環境啓発チーム

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-11-1 TEL 043-246-2180 FAX 043-246-6969
 E-mail keihatu@ckz.jp

「CO₂削減・百万人の環」キャンペーン

6月は環境月間です。県では、地球温暖化防止に向けた取組みの一環として、環境省の実施する「CO₂削減・百万人の環」キャンペーンに賛同し、6月19日(土)～6月21日(月)の3日間、夜8時から10時までの2時間、各家庭や県内のライトアップ施設での消灯を呼びかけます。

灯りを落とした部屋で、家族や友達とエネルギーのこと、昔の人々の生活や地球の未来などについて考えながら、スローな夜を過ごしてみたいかがでしょうか。

また、本キャンペーンと連携して行われる、大地を守る会、ナマケモノ倶楽部などのNGOが提唱している「100万人のキャンドルナイト」も皆さんの参加を求めています。詳しくはホームページをご覧ください。

「CO₂削減・百万人の環」

問い合わせ 県庁環境政策課 TEL 043-223-4648 HP <http://www.pref.chiba.jp/syozoku/sc/040603>

「100万人のキャンドルナイト」

HP <http://www.candle-night.org/>

問い合わせ 100万人のキャンドルナイト事務局 TEL 03-3402-8841

古紙 100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

申込先：千葉県環境財団 環境技術部
 環境啓発チーム気付

TEL:043-246-2180 FAX:043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/>

千葉県環境財団環境技術部環境啓発チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
 会費を添えて入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人 1,000 円 団体 2,000 円 賛助会員 5,000 円		

